

vol.47 シーズンオープニングコンサート

うつろう

2026年4月24日（金）

19：00開演（18：30開場）



◆曲目

モーツァルト

協奏交響曲 変ホ長調K.364

(弦楽六重奏版)

武満 徹

アントウル=タン

R.シュトラウス

メタモルフォーゼン

(弦楽七重奏版)

◆◆出演

ヴァイオリン	西野 ゆか
ヴァイオリン	橘和 美優
ヴィオラ	井野邊 大輔
ヴィオラ	吉田 有紀子
チェロ	三宅 進
チェロ	金子 遥亮
コントラバス	助川 龍
オーボエ	西沢 澄博

シーズンオープニングコンサートは、日本の弦楽四重奏の最前線をゆくベテラン、クアルテット・エクセルシオのメンバーと、仙台国際音楽コンクール入賞後、ロン＝ティボーでの活躍など、飛ぶ鳥を落とす勢いの橘和美優、そしてMusic from PaToNa初出演となる仙台フィルのフレッシュな奏者金子遥亮が登場します。おなじみモーツァルトの協奏交響曲は、原曲は、ヴァイオリンとヴィオラの二人のソリストとオーケストラが協奏しますが、今回は室内楽作品としても大変に完成度の高い編曲で、弦楽六重奏の室内楽版をお届けします。ヴァイオリン、ヴィオラだけでなく、チェロにも大きな見せ場が登場します。そして、今年没後30年となる武満徹のオーボエ四重奏曲「アントウル=タン」。Entre-Temps。直訳すると、「時」の「間（はざま）」。シュル・レアリズムの詩人、トリスタン・ツァラの詩の一篇から誕生した作品です。夢に似た構造を持ち、夜を薄明に向かって進むように…と作曲家は語っています。オーボエ入りの室内楽としても、世界的に重要なレパートリーのひとつとなったこの作品を祈念イヤーに再考します。そして、R.シュトラウスの「メタモルフォーゼン」。1945年。2つの世界大戦の終わりの年、ドイツの敗戦を見つめるかのように、R.シュトラウスが書いた作品です。「変容」を意味するこの作品は、瓦礫と化した街並みや敗戦と共に価値観ごと崩壊していく祖国への惜別の想いがこめられたきわめて美しい作品です。原曲では23人の奏者によって演奏されますが、Music from PaToNaは弦楽七重奏版で。世界が日々「うつろう」昨今。この時の間を、ホールの響きとともに描きます。